

職員による自己評価

保護者による評価

A環境面
 施設のスペース、環境は非常に良く、安全面に関しては確保されている。
 支援室はバリアフリーだが車椅子のトイレ利用はできない

B児童への支援内容
 どこにもない居場所確保、自己肯定感を上げる支援、保護者支援を核に提供している。
 活動状況は、日々連絡帳とメールを通して保護者と情報交換をしている。
 HPを通じての情報発信は対保護者に関してはツールとして活用は考えてなかった。

C関係機関との連携
 保護者からの依頼と協力を前提におこなう。相手機関のスケジュール調整が難しい。

D保護者への説明責任・信頼関係
 定期的、また保護者の要求に応じて面談を実施している。日々の連絡帳、メールを通じて情報交換から信頼関係の構築に努めている。

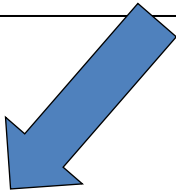
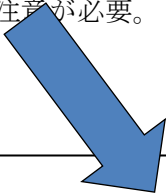
E非常対応
 年2回、全児童と避難訓練を実施している。
 保護者との共有も注意が必要。

A環境面
 高く評価している。

B児童への支援内容
 評価している。

C事業所からの情報発信
 連絡帳とメールを使い情報発信、共有は評価されている。
 HPの情報発信が十分でないとする保護者がいる。

D非常対応
 とくにコメントはなかった。



事業所内での分析

【共通点】
 事業所の環境の評価は高い。安全面に関しても非常に良い評価がある。
 情報共有に関して、日々の連絡帳、メールを使った情報共有は評価されている。
 保護者支援は評価されている。

【相違点】
 HPを使った情報発信に関して検討が必要。
 非常対応に関してコメントがなかったのを改めて情報共有が必要。
 支援内容、保護者支援は、更に改善が必要。

分析・検討してみて…

事業所の強み

スペースのある施設と安全な環境
児童の特別な居場所の提供
療育の目的
保護者支援と信頼関係の構築

事業所の改善点

情報共有の種類と方法に関して、再度、検討する。HPの活用に関しては検討する。児童の活動を保護者以外の人に発信する必要性と何を発信するか、保護者の意見をヒアリングして進めていく。
療育に関して、目的と手段を切り分けて保護者に理解してもらうようにスタッフ間で共通の認識を持って対応する。
関係機関との連携に関して定期的に協議していく。
非常対応は再考が必要。

事業所の改善への取り組み

HPの情報発信に関して保護者の意見をヒアリングして改善していく。
療育に関して、目的と手段を切り分けて保護者に説明をして理解してもらう。手段が目的にならないように常に努める。
関係機関との連携は保護者の承諾が前提なので、まずは保護者と信頼関係を十分構築していき、進めていく。
非常対応に関しては、コメントが何もないので、まずは現状が共有されているか確認して、改善を進めていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

高い視点からの現状の問題点や課題を職員間で共有できた。これからの改善の優先順位、改善方法に関して全体の認識を統一し進めていくようにスタッフ間での意識を確認できた。保護者からの意見をもっと吸い上げる基盤と環境を構築し、今後の運営を推進していくことで職員間の認識を再確認できた。

事業所名 _____

担当者 _____